

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	東洋学園大学
設置者名	学校法人東洋学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難	
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計			
グローバル・コミュニケーション学部	グローバル・コミュニケーション学科	夜・通信	5	6	16	27	13		
	英語コミュニケーション学科	夜・通信			20	31	13		
人間科学部	人間科学科	夜・通信				40	45	13	
		夜・通信							
現代経営学部	現代経営学科	夜・通信				50	55	13	
		夜・通信							
(備考)									

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

[https://www.tyg.jp/pdf/faculty/gakusoku\\_syllabus/index/offerings\\_list.pdf?20190801](https://www.tyg.jp/pdf/faculty/gakusoku_syllabus/index/offerings_list.pdf?20190801)

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	東洋学園大学
設置者名	学校法人東洋学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.tyg.jp/guide/toyo/councilor.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	私立大学学長	2019.4.1～ 2023.3.31	教学担当
非常勤	不動産会社副社長	2019.4.1～ 2023.3.31	施設管理担当
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	東洋学園大学
設置者名	学校法人東洋学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
<p>授業計画(シラバス)には、開講時期や年次、担当者などの他に、講義の目的・内容、到達目標、評価の方法・基準、テキスト・参考文献等、授業計画が明確に記載されている。また、15回の授業ごとに主題、概要、事前・事後学習が具体的に記されている。</p> <p>授業計画の制作過程は、年末にそれぞれの科目担当者にシラバス作成要領とともにシラバス作成の依頼を行うことから始まる。次に、提出されたシラバスについて、それぞれの学部の学部長の責任のもと、シラバスチェック担当者が指名され、シラバス作成要領に従って作成されているかの確認(シラバスチェック)が行われ、必要があれば、加筆や修正を依頼して、再度提出してもらう。</p> <p>そのプロセスを経て、完成したシラバスは学生が履修登録を行う前である4月1日にWeb上に公開される。</p>	
授業計画書の公表方法	Web上で公開し、教員名や授業名から検索できるようにしている <a href="https://www.tyg.jp/faculty/gakusoku_syllabus/index.html">https://www.tyg.jp/faculty/gakusoku_syllabus/index.html</a>
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
<p>成績評価は、定期試験の成績、授業時間中に随時行う試験の成績、レポートの成績、授業中の口頭試問の成績や学習態度など、授業の出席状況などを考慮し、総合的に評価している。このことは成績の評価基準とともに学生便覧に明確に記載されており、入学時に学生に配布している。また、大学のHPでも閲覧可能である。</p> <p>また、卒業論文についても学部ごとに、形式や提出期限、受理条件などについて、同じく学生便覧に具体的に記載している。</p> <p>それぞれの授業においても学習計画(シラバス)で、評価の方法、基準について明確に記している。また、学生は、成績確認期間を利用して、科目担当者に自分の成績評価について確認する制度もある。</p> <p>履修指導においても、各セメスターのオリエンテーション期間には、成績表の配布とともに、卒業要件を満たすように履修できるようゼミ担当者や教務部等で指導している。</p> <p>以上、単位の授与や履修認定について、適正かつ厳格に実施している。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>成績評価は、A (80~100) : 優れている、B (70~79) : 十分な理解水準に達している、C (60~69) : 大体のところ理解している、または最低限の理解水準に達している、D (60点未満) : 必要最低限の理解水準に達していないの4段階で評定しており、A~Cが合格で、Dが不合格としている。また、各科目にGP (Grade Point) 評価を行っており、a+ (4.3)、a (4.0)、b+ (3.3)、b (3.0)、c+ (2.3)、c (2.0)、d (1.0)、f (0.0) の8段階で点数をつけて、各履修科目のGPに単位数をかけたものの合計を履修科目の単位数の合計で割ったGPA (GPの平均値) も算出している。以上のことは学生便覧に記載し、学生にも公表している。</p> <p>また、教員には、その科目の履修者 (欠席過多、授業態度不良などによる不合格者を除く) に対して、A (a+, a) が30%、B (b+, b) が50%、C (c+, c, d) が20%を目安として、そのような分布に近くなるように、授業や試験の内容を工夫するように伝えている。</p>	
<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p>学生便覧に記載。学生便覧はHP上でも公表されている。 学部別に記載 P. 52、P. 80、P. 112 (2019年度学生便覧) <a href="https://www.tyg.jp/pdf/faculty/gakusoku_syllabus/index/b2019.pdf?20190621">https://www.tyg.jp/pdf/faculty/gakusoku_syllabus/index/b2019.pdf?20190621</a></p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学に4年以上8年以内在学し、合計124単位 (基本教育科目46単位以上、専門教育科目78単位以上) を取得し、GPAが2.0以上のもので、必修科目をはじめ所定の科目の単位を修得している者の卒業を認めている。以上の基準は学生便覧に記載している。また、各セメスターのオリエンテーション期間には卒業要件について学生に繰り返し周知している。</p> <p>卒業認定は、2月と3月の各学部の教授会において、各学部の教務委員会が作成した提案をもとに、上記の基準に従って厳格かつ適正に実施している。まず、2月の教授会においては、それまでにすべての基準を満たした学生の卒業を認定し、3月の教授会においては、追試験や再試験を受けるなどを理由に2月の教授会で認定できなかった学生について追加認定している。</p> <p>卒業認定の結果について、学生には学内掲示および大学のHP内で公表している。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>学生便覧に記載。学生便覧はHP上でも公表されている。 学部別に記載 P. 34、P. 67、P. 98 (2019年度学生便覧) <a href="https://www.tyg.jp/pdf/faculty/gakusoku_syllabus/index/b2019.pdf?20190621">https://www.tyg.jp/pdf/faculty/gakusoku_syllabus/index/b2019.pdf?20190621</a></p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	東洋学園大学
設置者名	学校法人東洋学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://www.tyg.jp/guide/toyo/financial_standing.html">https://www.tyg.jp/guide/toyo/financial_standing.html</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="https://www.tyg.jp/guide/toyo/financial_standing.html">https://www.tyg.jp/guide/toyo/financial_standing.html</a>
財産目録	<a href="https://www.tyg.jp/guide/toyo/financial_standing.html">https://www.tyg.jp/guide/toyo/financial_standing.html</a>
事業報告書	<a href="https://www.tyg.jp/guide/toyo/financial_standing.html">https://www.tyg.jp/guide/toyo/financial_standing.html</a>
監事による監査報告(書)	<a href="https://www.tyg.jp/guide/toyo/financial_standing.html">https://www.tyg.jp/guide/toyo/financial_standing.html</a>

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: )	対象年度: )
公表方法:	
中長期計画(名称: )	対象年度: )
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: <a href="https://www.tyg.jp/guide/toyo/information_disclosure.html">https://www.tyg.jp/guide/toyo/information_disclosure.html</a>
---

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: <a href="https://www.tyg.jp/guide/toyo/hyoka.html">https://www.tyg.jp/guide/toyo/hyoka.html</a>
---

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

① 教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 グローバル・コミュニケーション学部
教育研究上の目的（公表方法： <a href="https://www.tyg.jp/faculty/global_communications/policy.html">https://www.tyg.jp/faculty/global_communications/policy.html</a> ）
（概要） 様々な社会事象を正確に判断し、自己の考えを的確に発信することができるコミュニケーション能力と英語による情報や相手の意向などを理解し、自分の考えなどを表現することができるコミュニケーション能力を身に付けた人材を広く社会に輩出することにより、グローバル社会の発展と向上に貢献する人材の育成を目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法： <a href="https://www.tyg.jp/faculty/global_communications/policy.html">https://www.tyg.jp/faculty/global_communications/policy.html</a> ）
（概要） 東洋学園大学では学部学科が求める以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に卒業が認定される。  (1) グローバル・コミュニケーション学科は、自国や諸外国の地域や文化、社会に関する知識の理解を深めるとともに、現代社会における重要な主題や現代社会が直面する諸課題に関する知識及び社会事情について総合的に理解することにより、実際に生起する社会事象を正確に判断し、自己の考えを的確に発信することができる現代教養人としてのコミュニケーション能力を有して、ビジネスや文化交流、社会活動、地域貢献などの幅広い分野で中核的な役割を担うことができる人材の養成を目指す。  (2) 英語コミュニケーション学科は、英語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、英語の情報や相手の意向などを理解し、自分の考えなどを表現するコミュニケーション能力を養うとともに、英語に関する専門的な知識の理解のもとに、英語教育に関する基礎理論や指導法について理解することにより、国際社会や英語教育活動に必要なコミュニケーション能力を有して、国際関連産業や文化関連産業、教育関連産業などの幅広い分野で活躍することができる人材の養成を目指す。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

[https://www.tyg.jp/faculty/global\\_communications/policy.html](https://www.tyg.jp/faculty/global_communications/policy.html)）

（概要）

東洋学園大学ではアドミッション・ポリシーに共感し、未来に対する鋭い洞察力、豊かな想像力を基に、的確な意思決定能力を身につけ社会に貢献したいという意志を持つ学生に対し、その思いの実現に向けて以下の方針で教育課程を編成する。基本教育科目及び専門教育科目の教育課程の編成において、それぞれの学部の教育目標に向かって、順次的、体系的で整合性の取れた教育課程を編成する。

- (1) 教養教育の推進
- (2) 英語教育の重視
- (3) 少人数教育の実施
- (4) 詳細な授業計画の作成
- (5) セメスター制とキャップ制
- (6) 厳格な成績評価
- (7) 学部・学科の相互交流

基本教育科目では 46 単位以上、専門教育科目では 78 単位以上、合計 124 単位以上の単位修得が卒業要件となる。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：

[https://www.tyg.jp/faculty/global\\_communications/policy.html](https://www.tyg.jp/faculty/global_communications/policy.html)）

（概要）

グローバル化する文化・社会の様々な事象を正確に理解し、自己の考えを的確に発信することができる能力と、自他の言語や文化に深い関心を持ち、様々な言語による情報や相手の意図などを理解し、自分の考えなどを表現することができるコミュニケーション能力を身に付けることを希望している人材を求めている。英語やその他の言語によるコミュニケーション能力をさらに高めたいという意欲を見るために、調査書を参照する。得点や結果にかかわらず、英語をはじめとする諸外国語の資格にチャレンジする姿勢を評価する。

学部等名 人間科学部

教育研究上の目的（公表方法：  
<https://www.tyg.jp/faculty/humanscience/policy.html>）

（概要）

人間に関わる諸問題を深く多角的に理解することにより、人のこころとからだの健康の維持・増進・改善等に参与し、充実した幸せな暮らしの実現に寄与することのできる能力、および社会の様々な場面における人間関係を調整する能力を修得し、豊かで実りある人と人とのつながりの実現に貢献することのできる人材の育成を目指す。

卒業の認定に関する方針（公表方法：  
<https://www.tyg.jp/faculty/humanscience/policy.html>）

（概要）

東洋学園大学では学部学科が求める以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に卒業が認定される。

人間科学部人間科学科は、人間に関わる諸問題を深く多角的に理解することにより、人のこころとからだの健康の維持・増進・改善等に参与し、充実した幸せな暮らしの実現に寄与することのできる能力、および社会の様々な場面における人間関係を調整する能力を修得し、豊かで実りある人と人とのつながりの実現に貢献することのできる人材の育成を目指す。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：  
<https://www.tyg.jp/faculty/humanscience/policy.html>）

（概要）

東洋学園大学ではアドミッション・ポリシーに共感し、未来に対する鋭い洞察力、豊かな想像力を基に、的確な意思決定能力を身につけ社会に貢献したいという意志を持つ学生に対し、その思いの実現に向けて以下の方針で教育課程を編成する。基本教育科目及び専門教育科目の教育課程の編成において、それぞれの学部の教育目標に向かって、順次的、体系的で整合性の取れた教育課程を編成する。

- (1) 教養教育の推進
- (2) 英語教育の重視
- (3) 少人数教育の実施
- (4) 詳細な授業計画の作成
- (5) セメスター制とキャップ制
- (6) 厳格な成績評価
- (7) 学部・学科の相互交流

基本教育科目では 46 単位以上、専門教育科目では 78 単位以上、合計 124 単位以上の単位修得が卒業要件となる。



入学者の受入れに関する方針（公表方法：  
<https://www.tyg.jp/faculty/humanscience/policy.html>）

（概要）

人間科学部は、次のような能力、意欲、関心を有する人を求めている。

- ・「心」「身体」「社会」に関心を持ち、相手の困難な状況や苦しみを理解し共感できる人
- ・心や身体の発達に関する知識を得て、その支援に貢献したい人
- ・スポーツや運動の経験を活かして、人々の健康を増進する技能を身につけることができる人
- ・グローバル社会の中で人間が直面するさまざまな課題を理解し、地域社会と人間をつなげる仕組みを考え、その解決に関わりたい人。

人間科学部においては、「人を支える人」として、人や社会に貢献するための準備を進めているかを見るために、調査書を参照します。生徒会活動、部活動やボランティア活動など、人や社会とつながろうとする姿勢を評価する。

学部等名 現代経営学部

教育研究上の目的（公表方法：  
<https://www.tyg.jp/faculty/management/policy.html>）

（概要）  
変貌を遂げる社会的環境の中で、多様化、高度化、複雑化、国際化する現代的な経営課題を的確に認識し、現代的な視点から問題解決ができる基礎的な知識や能力に加えて、21世紀の現代の社会人に求められている幅広い視野と豊かな人間性を兼ね備えた人材の育成を目的とする。

卒業の認定に関する方針  
（公表方法：<https://www.tyg.jp/faculty/management/policy.html>）

（概要）  
東洋学園大学では学部学科が求める以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に卒業が認定される。

現代経営学部現代経営学科は、変貌を遂げる社会的環境の中で、多様化、高度化、複雑化、国際化する現代的な経営課題を的確に認識し、現代的な視点から問題解決ができる基礎的な知識や能力に加えて、21世紀の現代の社会人に求められている幅広い視野と豊かな人間性を兼ね備えた人材の育成を目的とする。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：  
<https://www.tyg.jp/faculty/management/policy.html>）

（概要）  
東洋学園大学ではアドミッション・ポリシーに共感し、未来に対する鋭い洞察力、豊かな想像力を基に、的確な意思決定能力を身につけ社会に貢献したいという意志を持つ学生に対し、その思いの実現に向けて以下の方針で教育課程を編成する。基本教育科目及び専門教育科目の教育課程の編成において、それぞれの学部の教育目標に向かって、順次的、体系的で整合性の取れた教育課程を編成する。

- (1) 教養教育の推進
- (2) 英語教育の重視
- (3) 少人数教育の実施
- (4) 詳細な授業計画の作成
- (5) セメスター制とキャップ制
- (6) 厳格な成績評価
- (7) 学部・学科の相互交流

基本教育科目では 46 単位以上、専門教育科目では 78 単位以上、合計 124 単位以上の単位修得が卒業要件となる。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：  
<https://www.tyg.jp/faculty/management/policy.html>）

（概要）

■教育目標

現代経営学部では、以下を教育目標に掲げています。

教員と学生、あるいは学生同士で話し合いながら、課題を整理し解決法を考えていく「事例研究（ケーススタディ）」により現代を生き抜く力を育成し、現代社会に有意な人材を社会に輩出する。

■求める学生像

現代経営学部では、現代社会を読み解き、現実にある課題を見つけて解決できる人材を育成するために、社会に貢献する意欲と専門分野を学ぶのに十分な基礎学力を有し、事例研究（ケーススタディ）や専門演習科目などによるグループワークを通じて、課題解決を図るための知識と方法論やプレゼンテーションなどの技法を実践的に習得したい人、あるいは、実証研究により、分析力と論理的思考力、柔軟な発想力を習得したい人を求めている。

現代経営学部においては、問題解決能力やプレゼンテーション能力の育成に力を注いでいる。どちらの能力にも、相手の立場に立って考える力が必要である。調査書を参照し、高等学校までのさまざまな体験や経験を通して、相手を思いやり自分の人間性を高めようとする意欲や姿勢を評価する。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.tyg.jp/guide/organization.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
	2人			—			2人
グローバル・コミュニケーション学部	—	14人	4人	8人	人	人	26人
人間科学学部	—	8人	7人	5人	人	人	20人
現代経営学部	—	10人	2人	7人	人	人	19人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
人		121人					121人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： <a href="https://www.tyg.jp/faculty/global_communications/teachers/index.html">https://www.tyg.jp/faculty/global_communications/teachers/index.html</a> (グローバル・コミュニケーション学部) <a href="https://www.tyg.jp/faculty/humanscience/teachers/index.html">https://www.tyg.jp/faculty/humanscience/teachers/index.html</a> (人間科学部) <a href="https://www.tyg.jp/faculty/management/teachers/index.html">https://www.tyg.jp/faculty/management/teachers/index.html</a> (現代経営学部)					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
授業評価アンケート、公開授業、全学研究会、新任専任教員研修会							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
グローバル・コミュニケーション学部	240人	267人	111.3%	1000人	940人	94.0%	20人	2人
人間科学部	200人	217人	108.5%	840人	833人	99.2%	20人	3人
現代経営学部	215人	235人	109.3%	930人	857人	92.2%	35人	5人
合計	655人	719人	109.8%	2770人	2630人	94.9%	75人	10人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
グローバル・コミュニケーション学部	155人 (100%)	0人 (0%)	122人 (78.7%)	33人 (21.3%)
人間科学部	99人 (100%)	0人 (0%)	81人 (81.8%)	18人 (18.2%)
現代経営学部	173人 (100%)	0人 (0%)	139人 (80.3%)	34人 (19.7%)
合計	427人 (100%)	0人 (0%)	342人 (80.1%)	85人 (19.9%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>授業計画（シラバス）には、開講時期や年次、担当者などの他に、講義の目的・内容、到達目標、評価の方法・基準、テキスト・参考文献等、授業計画が明確に記載されている。また、15回の授業ごとに主題、概要、事前・事後学習が具体的に記されている。</p> <p>授業計画の制作過程は、年末にそれぞれの科目担当者にシラバス作成要領とともにシラバス作成の依頼を行うことから始まる。次に、提出されたシラバスについて、それぞれの学部の学部長の責任のもと、シラバスチェック担当者が指名され、シラバス作成要領に従って作成されているかの確認（シラバスチェック）が行われ、必要があれば、加筆や修正を依頼して、再度提出してもらう。</p> <p>そのプロセスを経て、完成したシラバスは学生が履修登録を行う前である4月1日にWeb上に公開される。</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>本学に4年以上8年以内在学し、合計124単位（基本教育科目46単位以上、専門教育科目78単位以上）を取得し、GPAが2.0以上のもので、必修科目をはじめ所定の科目の単位を修得している者の卒業を認めている。以上の基準は学生便覧に記載している。また、各セメスターのオリエンテーション期間には卒業要件について学生に繰り返し周知している。</p> <p>卒業認定は、2月と3月の各学部の教授会において、各学部の教務委員会が作成した提案をもとに、上記の基準に従って厳格かつ適正に実施している。まず、2月の教授会においては、それまでにすべての基準を満たした学生の卒業を認定し、3月の教授会においては、追試験や再試験を受けるなどを理由に2月の教授会で認定できなかった学生について追加認定している。</p> <p>卒業認定の結果について、学生には学内掲示および大学のHP内で公表している。</p>				
学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
グローバル・コミュニケーション学部	グローバル・コミュニケーション学科	124単位	○・無	40単位
	英語コミュニケーション学科	124単位	○・無	40単位
人間科学部	人間科学科	124単位	○・無	40単位
現代経営学部	現代経営学科	124単位	○・無	1年次 36単位 2年次以降 38単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

<p>公表方法：<a href="https://www.tyg.jp/guide/hongo/index.html">https://www.tyg.jp/guide/hongo/index.html</a>（東京・本郷キャンパス） <a href="https://www.tyg.jp/campuslife/index.html">https://www.tyg.jp/campuslife/index.html</a>（キャンパスライフ）</p>
---

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
グローバル・コミュニケーション学部	グローバル・コミュニケーション学科	900,000円	300,000円	200,000円	
	英語コミュニケーション学科	900,000円	300,000円	200,000円	
人間科学部	人間科学科	900,000円	300,000円	200,000円	
		円	円	円	
現代経営学部	現代経営学科	900,000円	300,000円	200,000円	
		円	円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 学生相談室 (カウンセリングルーム) 学業について (勉学・履修・留学など)、課外活動について (クラブやサークルのことなど)、進路について (就職・転学など)、生活について (家庭、奨学金、経済問題など)、対人関係など誰かに相談したくてもしづらい悩みの相談を受ける窓口である。専門のスタッフが、一緒に考え、悩みをわかち合い、解決の糸口を探すお手伝いをする。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 就職・キャリア支援 (キャリアセンター) 1年から始まる各キャリア教育科目での学びをベースに、キャリアセンター主催の就職支援プログラム、個別サポートで学生就職活動を強力にサポートしている。キャリアセンターとゼミ担当教員が連携し、全員と面談するなど学生一人ひとりと向き合いながら、就職を中心とした次の進路に繋げる支援をしている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 保健室 看護師が常勤し、ケガの処置や病気の予防、健康診断や保健指導などを行い、健やかな学生生活を支えている。体組成測定やアルコールパッチテスト、血圧測定なども利用できる。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法 : <a href="https://www.tyg.jp/faculty/index.html">https://www.tyg.jp/faculty/index.html</a> (学部・大学院)
---